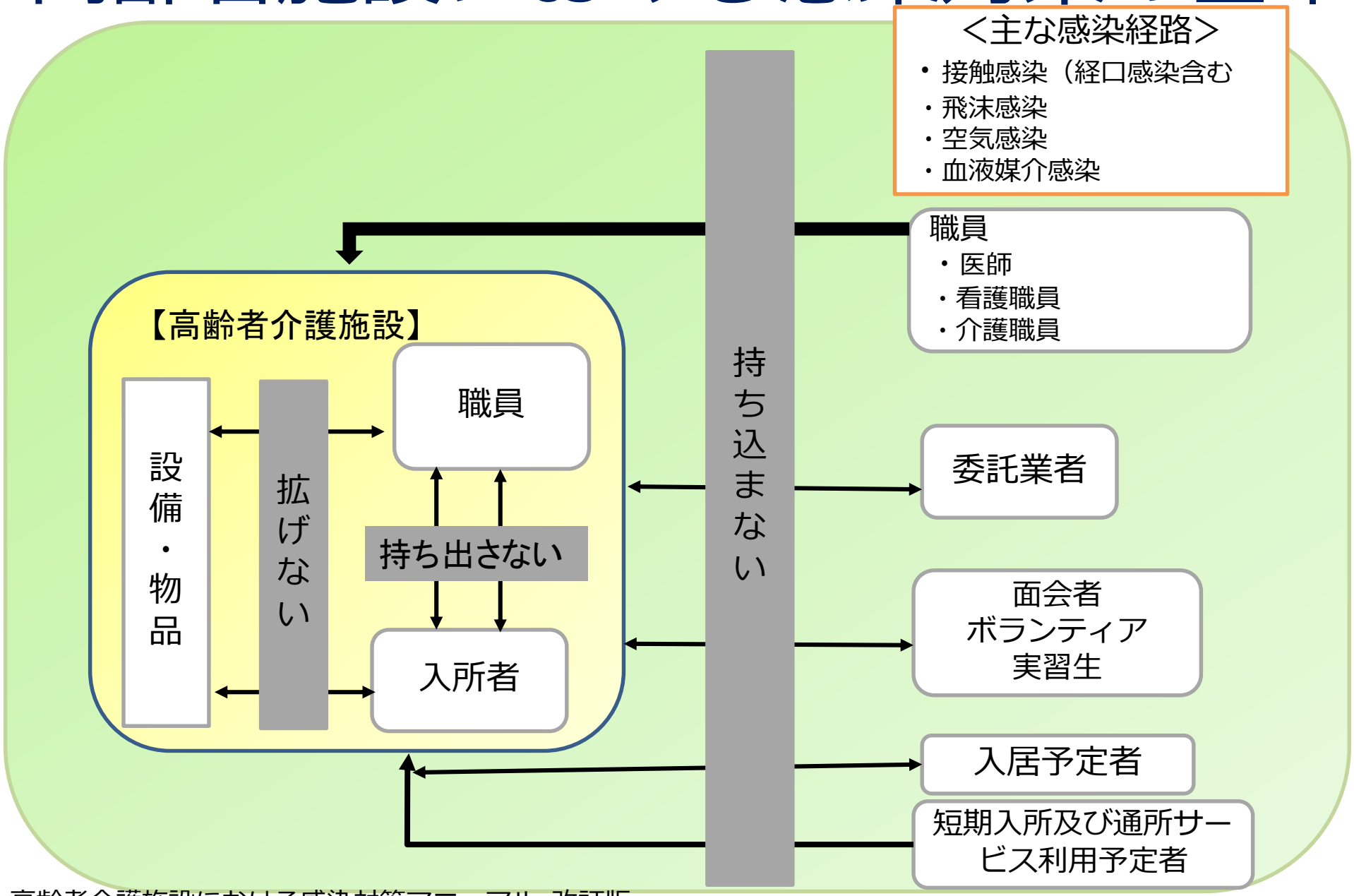
令和２年8 月21日(金)
高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症対応力向上のための研修会

新型コロナウイルス感染症発生時の感染対策

香川県立白鳥病院
感染管理認定看護師　林　珠美

高齢者施設における感染対策の基本



高齢者介護施設における感染対策マニュアル 改訂版

感染対策の基本

- 標準予防策　　平時から
  - 手指衛生　　流水・擦式アルコール製剤
  - 個人防護具の着用
    手袋・エプロン・マスク・ゴーグル
  - 咳エチケット
  - 環境整備

手指衛生の タイミング

http://med.saraya.com/who/fivemoments.html

流水による手洗いの方法

1.手のひらを合わせてよく洗う

2.手の甲を伸ばすように洗う

3.指先・爪の間をよく洗う

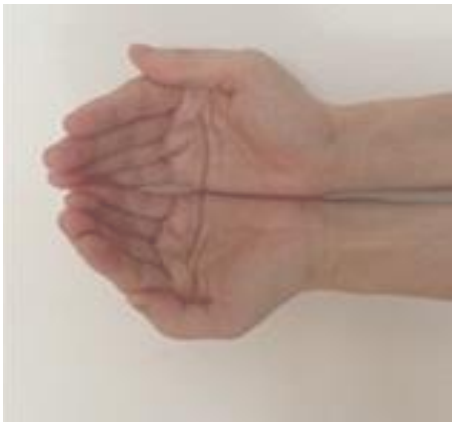
4.指の間を十分に洗う

5.親指と手掌をねじり洗いする

6.手首を洗う

7.水道の栓を止める時は、手首か肘で止める・ペーパータオルを使用して止める。

擦式アルコール製材を用いた手指衛生



手に擦り込める充分な量をとる

指先に擦り込む

手の甲に擦り込む

指間に擦り込む

両母指(親指)に擦り込む

手首に擦り込む

アルコールがなくなるまで手掌に擦り込む

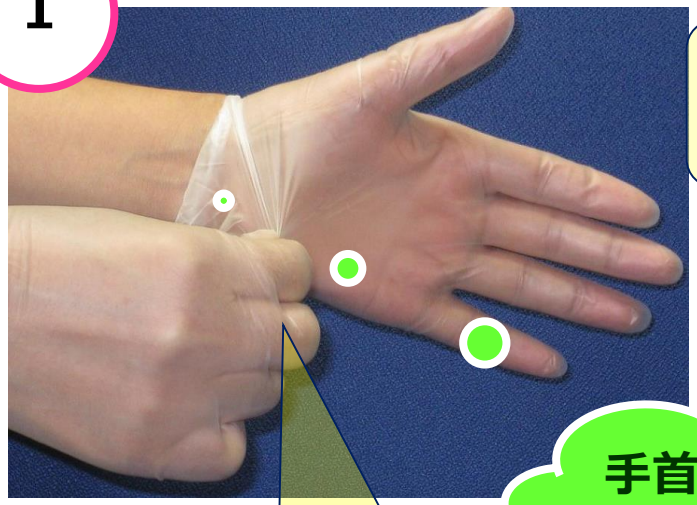
手洗いが不十分になりやすい場所

手袋

- 血液・他の感染性物質、粘膜、創のある皮膚、汚染の可能性のある皮膚へ接触するときに使用する。
- 患者や周囲環境に触れた後は、手の汚染を避けるために、適切なテクニックで外す。
- 複数の患者のケアに同じ手袋を使ってはならない。
- 体の汚染した部位から(陰部など）から清潔な部位(顔面など）に手が移動する時、患者ケアの途中でも手袋を交換する。

手袋の外し方

1



手袋の手首の部分を
つまむ

**手首に触らない
ように注意！**

2

手袋を引き上げて
外す

3

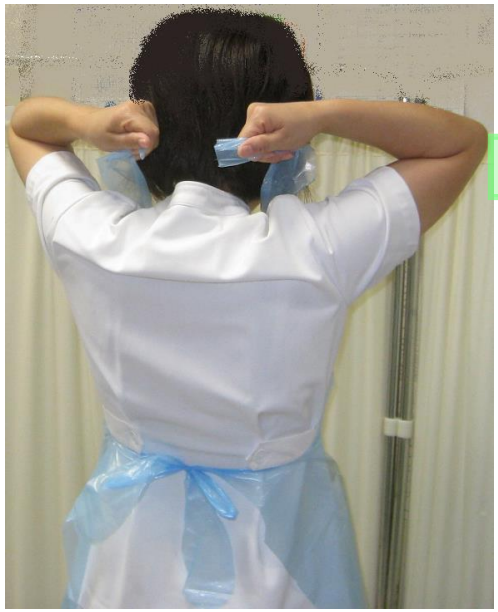
中表に脱いだ手袋を
片手に握る

ガウン・エプロン

- 血液、体液、分泌物、排泄物への接触が予想される場合、処置や患者ケアの際、衣類の汚れや汚染を防ぐために業務に適したガウンを装着する。
- 患者の分泌物や排泄物が物理的に封じこまれていない場合、ガウンを着用する。
- 患者のいる環境から出る前にガウンを脱ぎ、手指衛生を行う。
- 同じ患者に繰り返して接触する場合でもガウンは再使用しない。

隔離予防策のためのCDCガイドライン
医療環境における感染性病原体の伝播予防2007

エプロンの外し方



前面は汚染しています

口・鼻・眼の防御
マスク・ゴーグル

- 血液・体液・分泌物・排泄物のはねやしぶきの可能性のある処置や患者ケアをしている間、眼・鼻・口の粘膜を守るために使用する。

- エアロゾルを産生する処置(気道の吸引）をしている間、装着する。

隔離予防策のためのCDCガイドライン
医療環境における感染性病原体の伝播予防2007

マスクの着用

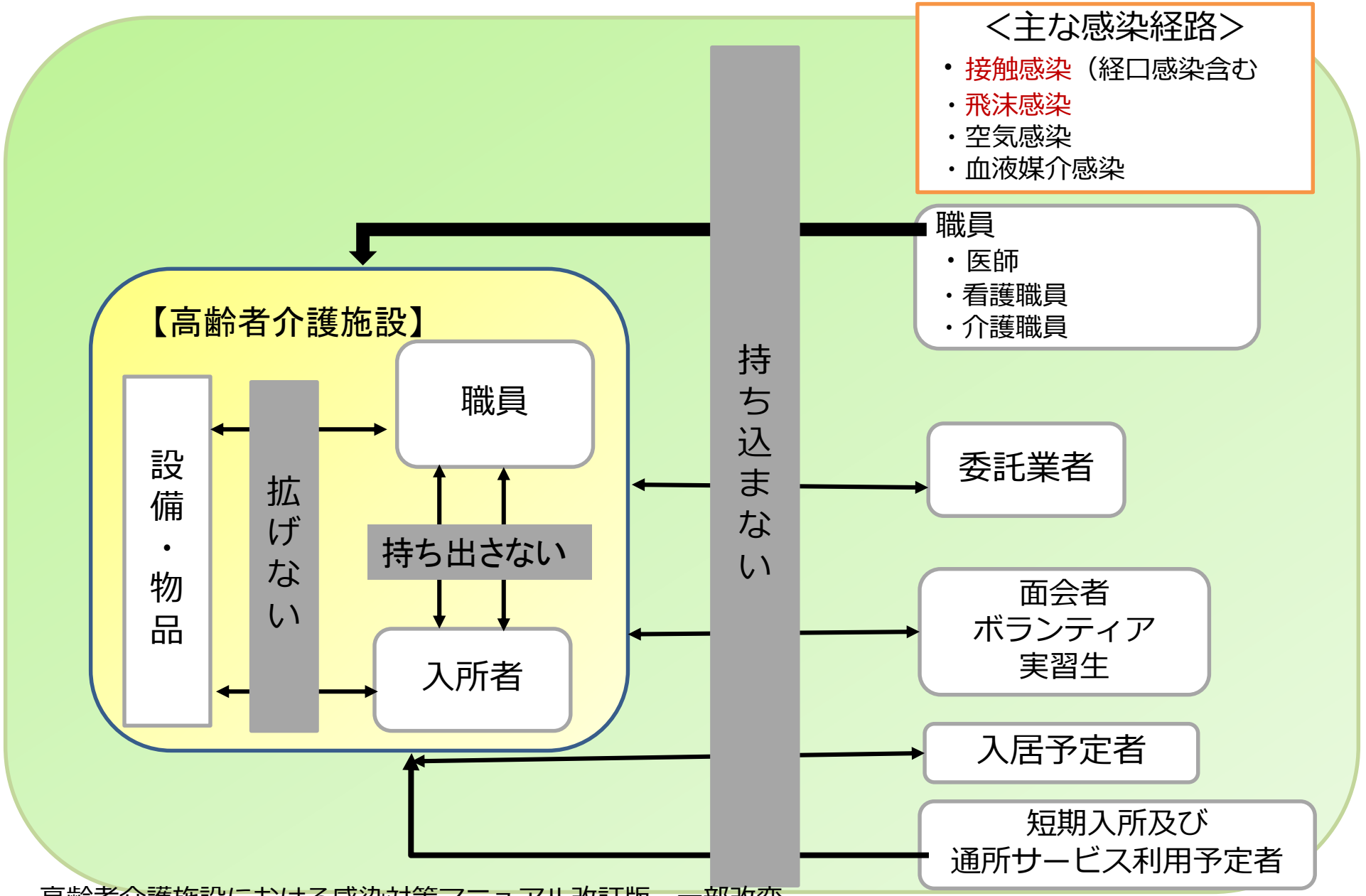
- 正しく装着する
- あごマスク×
- 腕にマスク×
- ポケットに入れない

マスクの外し方

感染性廃棄物に
捨てましょう

マスク表面は汚染されて
います。触れないで！

新型コロナウイルス感染症の感染経路



高齢者介護施設における感染対策マニュアル改訂版　一部改変

新型コロナ感染者が疑い例または発生した場合の感染対策

- ゾーニング
- 標準予防策
- 飛沫感染対策
- 接触感染対策

ゾーニング

- ゾーニング

　感染症患者の入所施設において、病原体によって汚染されている区域（汚染区域）と汚染されていない区域（清潔区域）を区別する。

- ゾーニングを行う時期

　新型コロナウイルス感染症が疑い例が発生

　新型コロナウイルス感染症が確定した場合

- 疑い例・感染者は個室にし、入り口を閉める。複数人の場合はコホートでもよい。（汚染区域）
- スタッフステーション・廊下などは清潔区域とする。

感染者発生時のゾーニングの特徴

- 感染者が発生してからゾーニングを設定するので、全体像が見えない状況で判断せざるをえないことがある。
- すでに広く汚染していることがあり、設定時に清掃消毒を行って、清潔区域を確保する。
- 多数の感染者が一つの部署で発生した場合、感染対策に不利な構造であっても感染者用にせざるをえないことがある。事前に予測していなかった対応が必要となる。

新型コロナ感染者が疑いまたは発生した場合の人材確保

- 感染者・濃厚接触者とその他の利用者の介護等を行う担当者は、できるだけ分けることが望ましい。
- 平時から、緊急時に備えた応援体制を構築しておく。
- 施設内感染を予防する観点から、施設内で体制整備や自主点検、施設内感染を発生を想定したシミュレーションの実施を行う。

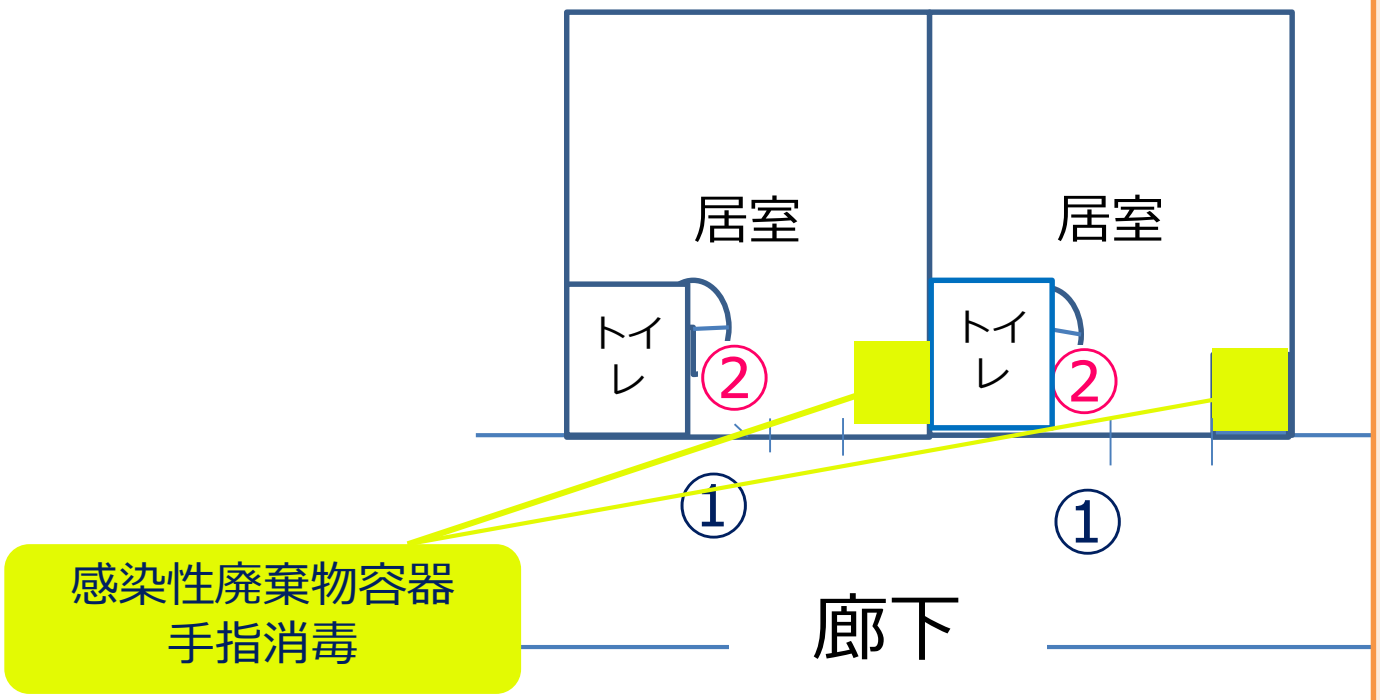
ゾーニングの考え方

- 汚染区域と清潔区域を明確に区別する。
- 汚染区域は可能な範囲で狭く設定する。
- スタッフステーションは原則として清潔区域とする。
- 職員は汚染区域に入る際は個人防護具を着用し、汚染区域から出る際は個人防護具を外す。
- 個人防護具の着用と脱衣は別の場所を指定し着脱する。
- 個人防護具の脱衣場所には感染性廃棄物容器を準備する。
- 個人防護具の着用場所と脱衣場所には手指消毒剤を設置する。
- 清潔区域では、汚染の起こりやすい部分を頻回に清掃消毒を行う。
- 換気を十分行う。空気が清潔区域から汚染区域の方向に流れないように工夫する。

疑い例・濃厚接触者

- 疑い例と感染者は居室・担当者を分ける。
- 疑い例の入所者は互いに接触しないように配慮する。
- 濃厚接触者と感染者は別室で対応する。
- 濃厚接触者は14日間にわたり健康状態を観察する。
- 濃厚接触者のケア時、換気、感染防護具の着用、ケア前後の手洗いを行う。

ゾーニングの基本パターン



感染者は病室内で過ごす

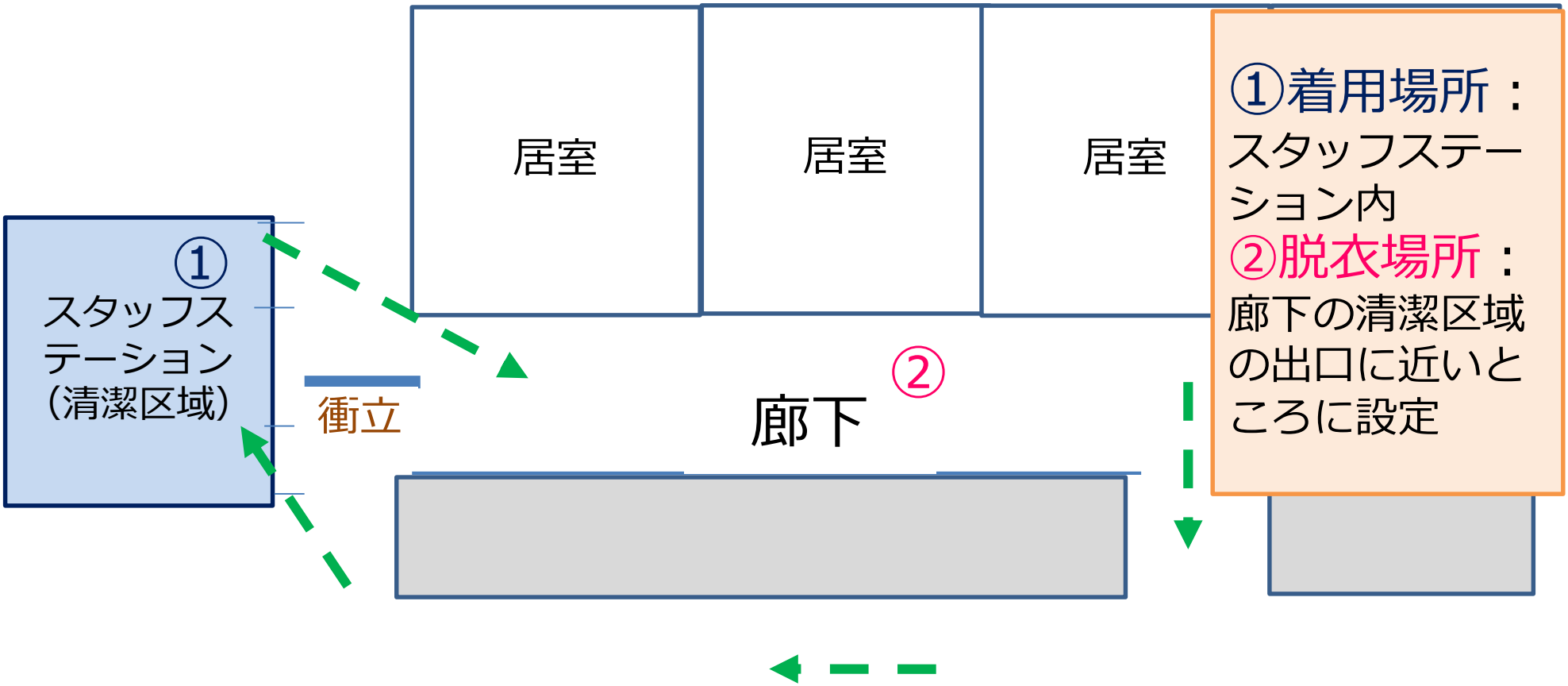
①着用場所：
廊下に設置、病室に入る前に個人防護具を着用する。

②脱衣場所：
室内（扉近く）に設置、ここで個人防護具を外して手指消毒を行い廊下に出る。

③流水による手洗い

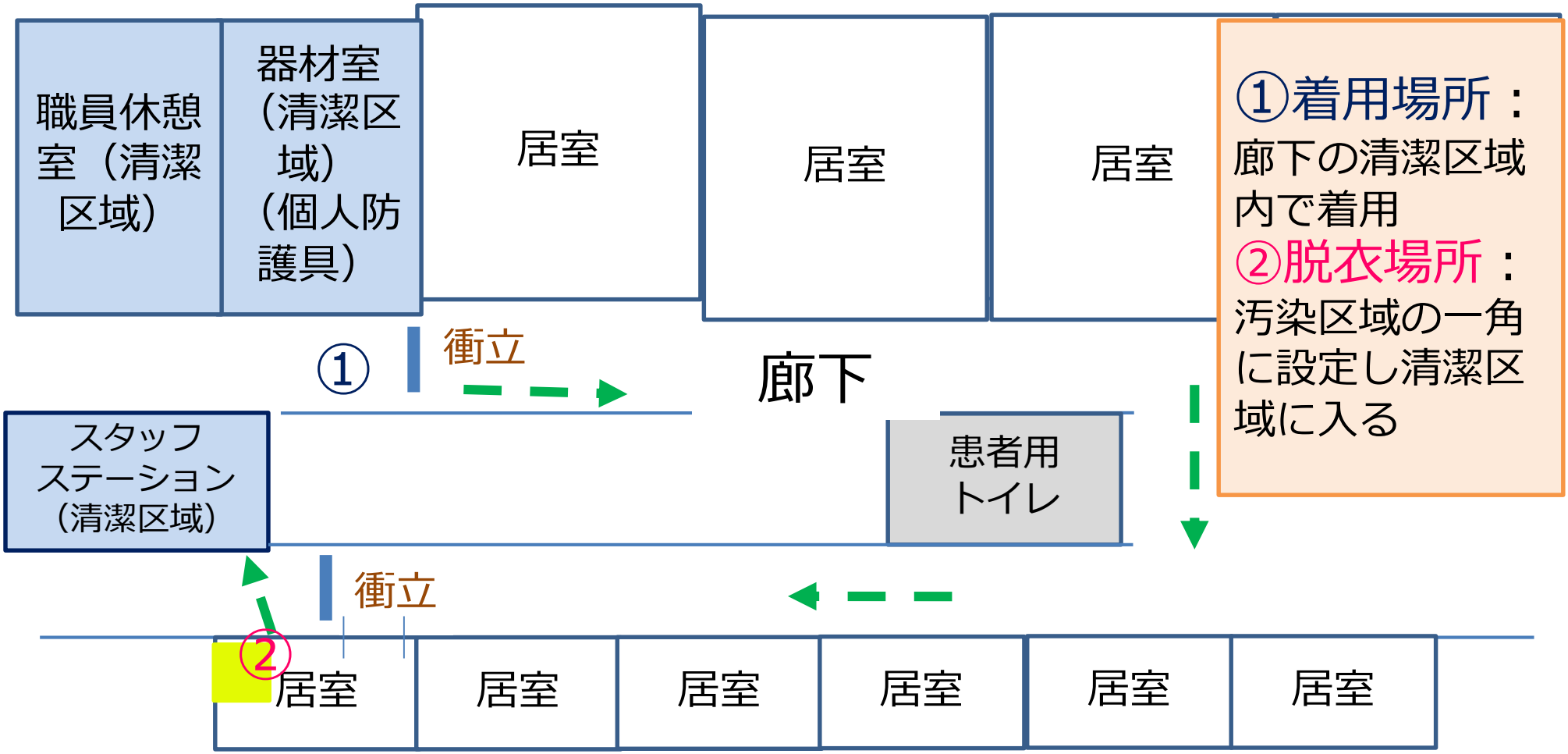
基本パターンが難しい場合

廊下に出ないとトイレが使用できない
隔離対象となる感染者数が多い
少ない職員で対応せざるをえない
個人防護具が不足し、本来患者ごとに個人防護具の交換が難しい。
オープンスペースの為、構造上汚染区域を広く取る必要がある



エリアの大部分を汚染区域と設定

患者用トイレが共用である。
感染者数が多い。
個人防護具が不足気味である。
職員休憩室と器材室（機材や未使用の個人防護具を収納）を設定した。



個人防護具の着脱順

着用時	外す時
● 手指衛生 ● キャップ ● ガウン ● サージカルマスク （吸引時はN95マスク） ● フェースシールド又は ゴーグル ● 手袋	● 手袋 ● 手指衛生 ● ガウン ● フェースシールド又はゴーグル ● 手指衛生 ● サージカルマスク （N95マスク） ● 手指衛生（→退室） ● キャップ ● 手指衛生

新型コロナウイルス感染症等の入所者の対応時の注意点

- 2人で対応するのが望ましい。
  一人は個人防護具を着用する
  他方は補助者となる。
  - 個人防護具が正しく着用できているか
  - 入り口の開閉
  - 必要物品等の受け渡し
- 個人防護具は患者ごとに交換する。
- 個人防護具を再利用する場合は交差感染をしないように保管する。

参考文献

- 厚生労働省『高齢者施設のための感染対策ガイドライン　改訂版』
- 『隔離予防策のためのCDCガイドライン　医療環境における感染性病原体の伝播予防2007』
- WHO「手指衛生のガイドライン』
- 国立国際医療研究センター・国際感染症センター『急性期病院における新型コロナウイルス感染症アウトブレイクでのゾーニングの考え方』
- 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部『医療機関における院内感染対策のための自主点検等について』